４　大阪市における安全教育

大阪市教育振興基本計画においては、最重要目標の一つである「子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現」に向けて、防災・減災教育や安全教育等により、「自ら危険を回避するために主体的に行動する」、「自他の安全に配慮し危険な環境を改善する、自他の生命を尊重し安全で安心な社会づくりに進んで参加する」など、安全を守るための力の育成が示されています。

交通事故において、近年、歩行中に死傷した人の年齢は、小学１年生が最も多いという結果が出ています。そして、小学生の事故はその３分の１が登下校中に起こっています。友達の行動の危険性は指摘できても、自分の行動の危険性を予測できないといった幼児期の発達の特性を踏まえ、就学前施設においては、発達段階に応じた目標を設定するとともに、日々の保育を通して何をしておくか、何ができるのか等、教職員や地域の方等と考えて実践することが大切です。また、子どもが巻き込まれる犯罪の多発等を踏まえると、子どもが安心して成長できる場所は、就学前施設はもちろんのこと、子どもたちが生活する全ての場所で保障されなければなりません。

さらに、自然災害（地震、風水害等）も多い中、就学前施設においては、災害を想定した避難訓練や、保護者との災害における連絡体制の構築も必要です。

保護者・地域との連携による安全で安心できる教育コミュニティづくりに向けて、取り組んでいくことが今後の課題です。

＜「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」平成 27 年９月改訂（大阪市教育委員会）抜粋 ＞

第4章　災害時の学校園の役割　　第２部 災害予防・応急対策　　第７章　防災教育・訓練

第２５節 防災知識の普及・防災教育

防災知識の普及啓発・訓練や研修の実施等、幼児期からその発達段階に応じ学校教育及び社会教育等、あらゆる機会を通じて、市民等の防災意識の高揚と災害初動対応スキルの習得に努める。

２５－３ 乳幼児・児童・生徒等に対する防火・防災教育

防災意識を高め、それを次世代へ着実に継承していくためには、学校園における防災教育が重要である。学校園は、児童・生徒の安全を守るとともに、今後、地域防災の主体を担い、防災活動に大きな役割を果たすことができる人材を育成するよう、各教科、道徳、特別活動等の指導における副読本等の教材・資料の作成、避難訓練や応急措置等の充実を図り、乳幼児・児童・生徒の発達段階や学校園等の実態に応じた防災教育を実施する。

第７章　防災・減災モデルカリキュラム

防災・減災教育モデルカリキュラム
発達段階に応じた目標

		知識、思考・判断	危険予測・主体的な行動	社会貢献・支援者の基盤
地域に生きる	幼	・日常の園生活において、危険な場所や遊び方を知り、安全な行動の仕方がわかる。（自助） ・災害発生時の行動の仕方がわかる。（自助）	・指示に従い、安全に行動できるようにする。（自助） ・素早く安全に行動する。（自助）	・先生や友達と協力して活動に取り組む。（共助）
	小１・２年	・友達や身近な人たちへの関心を高め、仲良く行動できるようにする。（共助） ・学校や校区にある安全な施設について知る。（自助）	・指示に従い、安全に行動できるようにする。（自助） ・素早く安全に行動する。（自助）	・集団の一員であることを自覚し、自分の仕事に責任をもって取り組む。（共助）

＜防災・減災教育モデルカリキュラム＞

幼児への防災教育は、火事や地震の恐ろしさ等についての話やそれらに関する本の読み聞かせや遊びの中で知らせ、身を守る意識を高め、身につくように働きかけることが必要です。

【幼稚園（例）】

ア．知識・思考・判断

・日常の園生活において、危険な場所や遊び方を知り、安全な行動の仕方がわかる。（自助）

・災害発生時の行動の仕方がわかる。（自助）

イ．危険予測・主体的な行動

・指示に従い、安全に行動できるようにする。（自助）

・素早く安全に行動する。（自助）

ウ．社会貢献、支援者の基礎

・先生や友達と協力して活動に取り組む。（共助）

歳児別	内容	目標
３歳	・ 遊具の安全な使い方を知らせ、何が危険なことかわかるようにする。	ア
	・ 安全な園生活を過ごすために、必要な約束やきまりを知らせる。	ア
	・ 避難訓練を行い、指導者の指示を聞き怖がらずに行動させる。	イ
	・ 教職員と共に避難する。	ウ
４歳	・ 園外に出るときの安全やマナーについての約束を知らせ、安全に気をつけて活動できるようにする。	ア
	・ 避難訓練を通して、災害発生時の危険状況を知り、指示に従って速やかに避難できるようにする。	イ
	・ 集団行動の仕方や約束を知り、周囲の様子に関心をもって、行動しようとする。	ウ
	・ 年下の幼児やお年寄りを思いやる気持ちをもつ。	ウ
５歳	・ 危険な場所や遊び方、災害時などの行動の仕方を再確認させ、安全な場で身を守る姿勢や行動を素早くとれるようにする。	ア
	・ 身の回りの安全や季節の変化に関心をもち、けがをしないように気をつけて行動するようにする。	ア
	・ 地震や津波の避難訓練を実施し、災害発生時の危険状況を理解し、生命を守ることの大切さを知らせる。	イ
	・ 集団行動の仕方や友達とルールや手順に沿って動くことを理解し、協力して活動する。	ウ
	・ 年下の幼児やお年寄りを思いやる気持ちをもつ。	ウ

（1）　防災・減災教育（例）

それぞれの就学前施設の実態に応じて計画し、組織全体で実践を行っていきます。

＜「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」抜粋 ＞

＜日常生活等と関連した展開例＞

５歳　「日常生活の中で安全（防災）に関する意識や態度を高める指導」

主な活動　ドッジボールをする

保育の目標

- 自分の体を自分の思うように動かして遊ぶ。
- ルールを理解し、周囲の状況に応じて素早く動く。
- 自分の思いを言葉で相手に伝わるように話す。
- 周りにある物や人の動きを感じ、安全に行動しようとする。

みんながなかよく、楽しく遊ぶためには、どうしたらいいかな。

- ルールをまもる。
- 友達がこまることはしない。

園庭でドッジボールをするときに、あぶないことはどんなことがあるかな。

- ドッジボールをしているところに、小さい組さんがきたら、ボールを投げないようにする。
- ひろいところで遊ぶようにする。

【 防災教育の視点 】

- 安全な遊び方のルールを知り、危険を回避できるように考える。
- ボールを投げたり、よけたり、うけたりすることで、自分の体のバランスを考えて動く。
- 友だちの動き、ボールの動き等に対応して自分も動く。
- 周囲の友だちの遊びや動きを見ながら、場を選んだり、状況を考えたりして遊ぶ。

＜防災・減災教育（避難訓練を含む）実践事例＞

１．対象・・・幼稚園

２．指導計画作成にあたっての留意点

幼児期の発達に合わせて、恐怖心をもたせることのないように配慮し、幼児一人一人が落ち着いて安全に行動できるように、具体的な行動の仕方を理解させるように工夫する。

３．目標

○ 地震のときに起こりうる事態を具体的に知り、どのようにしたらよいかを知る。
○ 大人の指示をしっかり聞き、行動できるようにする。
○ 危険な状態を発見したときは、身近な大人に速やかに伝えることができるようにする。

４．関連領域 健康、人間関係、環境、言葉

５．指導計画（指導の流れ）

幼児の主な活動	援助及び指導上の留意点
1.命の大切さ、友達と仲良く遊ぶ楽しさなどを話し合う ○自然の大きさ、美しさ、不思議さ。 ○友達と楽しく生活したこと。 ○身近な動植物とのふれあい体験による､生命の尊さへの気付き。	・日頃の保育活動の中で、十分に体験させておくことが大切である。
2.地震が起こったらどうなるの ○地震について知っていることを話し合う。 ○地震についての話を聞く。	・経験したことやテレビで見たことをもとに話し合うようにする。 ・恐怖心を与えないようにする。 ・絵本や紙芝居、ビデオなど発達段階にあった資料を活用する。
3.地震が起こったらどうしたらいいの ○保育室や園庭など園内の危険な箇所について考える。 ・落下物　・転倒の危険 ・倒壊の危険　等 ○避難の仕方を考える。 ・一時退避場所、方法 ・避難経路　・避難の時の態度 ・危険な状況を見つけた時の対応　等	・様々な危険について、具体的に確認しながら考えるようにする。 ・保育室、園庭、遊戯室などそれぞれで具体的にしてみるようにする。 ・落下物などに気を付け、頭を保護するようにする。 ・指示を聞くことが大切だと知らせる。 ・落ち着いて行動することが大切であることを知らせる。
4.家の人とも話してみよう	・防災指導をした日は、お迎えのときなどに、内容を保護者に伝え、家でも子どもの話を聞き、話し合って、地震が起こったときにどうしたらいいか考えてもらう。

（2）　安全教育の実践（例）

火事や地震等を想定した避難訓練や交通安全指導等を通して、組織全体で子どもの命を守り、また、子ども自身が安全に対する意識を高めていくことが大切です。毎日の生活の中で、しっかり体を動かし、機敏に動いたり、話をよく聞いたりするなどの態度も育てていくことが必要です。

日常生活の中で身の守り方を知らせる　対象：０～２歳児

＜ねらい＞○地震発生時の身の守り方を知る。

＜活　動＞○落下物や危険物から身を守り、怖がらず落ち着いて避難する。

＜保育者の働きかけ＞

・子どもが安心できるように、気持ちを受け止めながら、落ち着いて、ゆっくり話しかけ、保育者との信頼関係の中で安心して活動できるようにする。

・身を守る姿勢がとれるように、保育者が動きのモデルとなる。

・「机の下にかくれんぼ」「ダンゴムシのように丸くなってみよう」など、必要な行動を言葉で知らせる。

＜その他＞

・日頃からリズム活動を楽しみながら、ダンゴムシのポーズをしたり、机の下に隠れたりして身を守る姿勢を知らせる。

・日頃から様々な時間帯や状況下で訓練を行うことで、実際に地震が起こったときの子どもの姿が予測できるようにしておく。

・日頃から避難車に乗る経験をして、慣れておく。

リラックスした雰囲気から

「ダンゴムシ」の姿勢をとる

日頃から避難車に慣れておく

避難訓練（想定：地震・津波）　対象：０～２歳児（職員）

＜ねらい＞○地震発生時に乳幼児の身を守り、安全に避難する。

＜活　動＞○落下物や危険物に注意し、落ち着いて避難する。

＜保育者の働きかけ＞

・子どもが安心できるように、気持ちを受け止めながら、落ち着いて、ゆっくり話しかける。

・頭上や周りに落下物や危険物がない場所を確認した上で指示を出す。

・身を守る姿勢がとれるように保育者が、動きのモデルとなりながら、日常の安全指導で用いる「ダンゴムシになろう」など分かりやすい言葉で動きを示す。

・０～１歳児の中で、自分で移動できない子どもには、保育者が布団やマットを被せ落下物から身を守るようにする。

・２歳児で歩いて避難する場合、幼児クラスや事務職員等も応援に行き、必ず子どもと手をつなぐ。

・津波を想定し、避難車に乗せて、高所避難場所に誘導する。

＜その他＞

・雨天時なども想定して避難の方法を工夫する。

緊急時は、できる限り乳児クラスの応援に入る

素早くマットや布団を被せ子どもの身を守る

雨天を想定しての訓練も実施する

おんぶひもでの移動も経験しておく

避難訓練（想定：地震・津波）　対象：３～5 歳児

＜ねらい＞○災害発生時の行動の仕方や避難場所について知る。

＜活　動＞○大阪 880 万人訓練を活用した避難訓練に参加する。

○津波を想定して二次避難場所に移動し、高所に避難する。

＜指導者の働きかけ＞

・事前に避難場所である小学校の施設に関心をもつことができるようにする。

・日頃から災害避難訓練を園所で行い、災害時の行動について知らせる。

・高所に避難できる経路に、迅速に誘導する。

・指導者の話を聞き、自分自身の安全について考え、約束を守って行動できるようにする。

＜その他＞

・指導者の傍から離れない、「お・は・し・も」（＊注）の約束等、基本的な約束について繰り返し確認する。

・引き渡し訓練を行い、保護者と連絡方法を確認する。

・非常持ち出し袋の中身や置き場、避難場所への経路等を定期的に確認、点検する。

・緊急地震速報のチャイムを知っておく。

・防災頭巾のかぶり方を知り、慣れておく。また、防災頭巾を被って避難場所へ移動する経験をし、見え方や聞こえ方の変化を知らせておく。

・頭を守ることや必ず靴を履いて逃げるなど、訓練等を通して知らせる。

・保護者への引き渡し訓練を行うなど、保護者との連携に努め、連絡体制や引き渡し方法等について事前に情報を共有しておく。

＊注　「お・は・し・も」　押さない、走らない、しゃべらない、もどらない

保護者への引き渡し訓練

防災頭巾を被って地域を歩く

いす等で頭を守る姿勢をとる

安全に加工されたプラスチックの上を歩き、感触から靴の大切さを知る

避難訓練（想定：不審者侵入）　対象：3～5 歳児

＜ねらい＞〇不審者が侵入した時の避難の仕方を知る。
〇知らない人について行かない約束をする。
＜活　動＞〇訪問者を装って園内に侵入した不審者から素早く離れ、室内に避難する。
＜指導者の働きかけ＞
・訓練であることを事前に知らせ、むやみに怖がらせることなく避難できるようにする。
・集会等の活動に誘いかけるようにして「遊戯室」や「〇〇組」等、集合場所を明確にして、速やかに子どもを引率する。
・子どもが怖がらないように、落ち着いた声で指示を出す。
・窓のある部屋では、声を出さず、身を低くするように知らせる。
＜その他＞
・不審者が侵入したことを知らせる合言葉や音楽を決めておく。
・警察署や区役所の安全パトロール等、関係諸機関と連携した防犯訓練を行い、不審者侵入時の対応や連絡体制等、情報を共有しておく。
・「いかのおすし」（＊注）の約束を日頃から確認しておく。

＊注「いかのおすし」・・・行かない、乗らない、大声を出す、すぐに逃げる、知らせる。

警察や区役所と連携した防犯訓練

窓よりも低くなって身を守る姿勢をとる

交通安全指導　対象：3～5歳児

＜ねらい＞○道路の安全な歩き方や交通ルールを知り、守る。
＜活　動＞○人形劇を通して、危険な行為や安全な歩き方について知る。
　　○模擬横断歩道や信号を使った、歩行体験をする。
＜指導者の働きかけ＞
・安全な横断の仕方が分かるよう実際に歩行し、横断歩道や信号、標識や表示の意味を知らせる。
・歩行体験を通して、曲がり角や交差点の前で立ち止まり、左右を確認すること、信号をよく見て行動できるように知らせる。
・人形劇や指導者の話を通して、飛び出しや信号、横断歩道のない場所での横断は危険であることに気付くようにする。
・クイズ等を通して、問いかけに答えながら、正しい交通ルールについて考えられるようにする。
＜その他＞
・警察署や区役所と連携した交通安全教室を通して、地域の実態や事故の傾向についても把握する。
・保護者と連携した登園所の交通安全指導に生かす。
・後日、園所庭で雨具を着けての歩行体験を行い、視野の狭さや動きにくさに気を付けるように促す。

交通ルールについての人形劇を見る

信号や標識の見方を知り、横断歩道を渡る

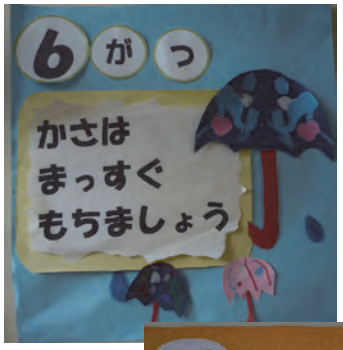
傘の安全な扱い方を知る

雨の日に、雨具を身に着けて歩き、視野の狭さを体験する

＜安全ポスター＞

毎月安全テーマを決めて安全ポスターを作成し、幼児と保護者に安全の意識を高める。

小掲示板テーマ「安全」	
月	標語
6	あめのひの　かさは　まっすぐもちましょう！
7	みずあそび　たのしいけれど　きをつけて
8	いかのおすし （いかない　のらない　おおごえでさけぶ　すぐにげる　しらせる）
9	ひなんくんれん　おはしも （おさない　はしらない　しずかに　もどらない）
10	あわてずに　しんごうよくみて　わたろうね
11	ゆうぐのおやくそく　にもつはおいて　あそぼうね
12	だんぼうは　すこしはなれて　あたたまろう
1	かじのひなんくんれん はんかちで　くちとはなを　おさえよう
2	さむくても　てをだして　あるこうね
3	じしんのひなんくんれん ゆれてるよ　しっかりあたまを　おさえましょう



＜安全・防災だより＞

年間を通して実施した避難訓練や安全指導の内容を保護者や地域に発信しました。

A園の安全教育年間計画

期	月	安全教育年間計画		
		避難訓練	交通安全	その他の安全指導
Ⅰ期	4	火災(伝達：非常ベル、放送) ○避難訓練の意味や必要性を知る ○避難の仕方を知る ○避難の合図を知る（ベル、サイレン） ○鼻、口にハンカチを当てる ○「おはしも」の約束を知る ・残留園児はいないか人数確認	○安全な通園の仕方を知る ・歩道の歩き方や信号を守るなど、初歩的な交通安全の約束 ・送迎の自転車の乗り方 ・保護者への交通安全について啓発	○園所内の安全な生活の仕方を知る ・通園の仕方 ・遊びの場での安全な過ごし方や遊具（固定遊具を含む）、用具の使い方 ・けがをしたときの対応の仕方 ・小動物とのかかわり方 ・生活や遊びの中で必要に応じた道具や用具の使い方(いす､はさみ､箸等) ・集団での行動の仕方（一人で行動しない） ・園外での安全な歩き方（並ぶ、間隔を空けない） ・光化学スモッグ発令時の対応 ＊アレルギー対応についての実態把握と対応について保護者や関係諸機関と連携
	5	火災（伝達：非常ベル、放送） ○火災から身を守る方法を知る ○放送や指示を聞き安全に避難する ○身を低くして速やかに移動する	○道路の安全な歩き方を知る ・信号、標識、表示の見方 ・安全確認（左右を見る）の仕方 ・園外保育を利用した信号や標識の見方、横断歩道の渡り方	
Ⅱ期	6	不審者対応（伝達：口頭や音楽） ○園内に侵入した時の避難の仕方を知る ○戸外から速やかに室内に入る ・侵入時を想定した伝達方法の共通理解 ・怖がらせないように配慮する ・警察署と連携した防犯訓練を行う	○雨の日の安全な歩行の仕方を知る ○雨具を身に着けたり、持ったりして歩行する経験をする(傘、雨合羽、長靴) ○園外保育で安全に歩く ・歩道の歩き方、右側通行 ・自動車の前後の横断	○雨の日の過ごし方を知る ・雨具の扱い方、始末の仕方 ・廊下や室内では走らない ○暴風雨、洪水等災害時の危険について知る ・戸外にいるときの落雷の怖さ ・登校園時の危険箇所 ○水遊びのきまりや約束を知る ・プール遊びの約束 ・緊急時に備えた救急救命訓練（ＡＥＤ） ○熱中症の予防について知る ・暑さ指数に注意 ・水分補給、休息 ○生活のリズムを整え、健康で安全に過ごす ・通園時の約束 ・遊具、用具の使い方 ○集団で行動するときの約束を守る ・集合の合図、並ぶ等
	7	地震（伝達：非常ベル、放送） ○地震の時の避難の仕方を知る ○机の下に潜る○避難時は靴を履く ○防災頭巾の被り方を知る	○交通安全教室に参加し交通安全を守ろうという意欲をもつ ・信号、標識、表示の見方 ・横断歩道の歩き方 ・信号や歩道のないときの歩き方 ・飛び出しの危険 ・道路で遊ばない ＊警察署と連携した交通安全教室	
	8	火災（伝達：口頭） ＊夏季預かり保育実施期間中の訓練 ○指導者の指示をよく聞いて行動する		
Ⅲ期	9	地震・津波（伝達：エリアメール、防災無線、口頭） ○大阪８８０万人避難訓練に参加する ○地震から身を守る方法を再確認する ○指示をよく聞き、機敏に行動する ○二次避難場所を知る（近隣小の３階） ・保護者と連携した引渡し訓練をする	○安全な通園の仕方、道路の歩き方等交通ルールを守る ・園外保育等、園外の活動を活用して交通ルールを再確認する	
	10	火災（伝達：指導者の声による指示） ＊戸外で遊んでいる時を想定 ○近くにいる指導者の指示を聞き、集まる ○煙を吸わないようにする ○次の指示を待って、二次避難する	○信号の正しい見方 ・点滅しているときの判断の仕方、適切な行動 ・道路の渡り方（信号や横断歩道のあるところ）	○様々な遊具の使い方、遊び方を守る ・ボールや跳び縄等の扱い ・片付け方 ○集団で行動するときの約束を守る ・指示を聞き、気を付ける ○様々な遊具や用具を安全に使い、片付ける ・次に使う人のことを考えて片付ける ○園外の行動等、集団で行動するときの約束を守る ・指示を聞き、気を付ける ・担任以外の指導者の話にも関心をもって聞く ○体を動かして遊ぶ、戸外で遊ぶ ○動きやすい服装をする ○暖房器具の危険性と安全に関する約束を知り、守る
Ⅳ期	11	地震（伝達：非常ベル、放送） ○地震から身を守る方法を再確認する ○防災頭巾を自分でかぶる ○使っていた用具や遊具は置いていく ○指示を聞いて屋外に避難する	○通園時、園外保育時の交通ルールに自ら気を付け、守る ○電車の乗降やホーム、車内で安全な行動をし、マナーを守る	
	12	火災（伝達：非常ベル、放送、口頭） ＊好きな遊びの場での避難を経験する ○火災時の行動の仕方を再確認する ○近くにいる指導者の指示を聞き集まる ○使っていた用具・遊具を端に寄せる ・人数確認と避難経路の確保	○様々な状況や場面での交通ルールについて知る ・道路の横断 ・駐車中の車の前後 ・信号の点滅時の判断 ・歩道のない場所での歩行	
Ⅴ期	1	地震・火災（伝達：非常ベル、放送） ○机やいすの脚を支え、大地震による揺れから身を守る ○自分で防災頭巾をかぶり、鼻、口にハンカチを当て、身を低くして速やかに避難する ・地域の防災訓練への参画	○様々な状況や場面での交通ルールについて判断して行動する ・交通量が多い道路の横断・歩行（横断歩道や信号のある場所を通る） ・自分の耳、目で確かめるよう習慣づける	○体を動かし、安全で活発に行動する ・体を温めてから活動する ・動きやすい服装をする ○園生活に必要な約束やきまりに気づき守る ・暖房機の危険性、安全に関する約束 ・雪の日の安全な遊び方や身支度 ○身の回りの安全に自ら気付き、判断し、行動する ○園生活に必要な約束やきまりに気づき守る ・暖房機の危険性、安全に関する約束 ・雪の日の安全な遊び方や身支度の仕方 ・今年度の取組の反省を生かし、次年度の取組内容の立案する
	2	火災（伝達：非常ベル、放送、口頭） ＊予告なく「火事だ」の声で始める ○近くにいる指導者のところに自ら集まる ○次の指示を聞いて集団で行動する ○火事の怖さ、火事発見時の適切な行動について知る ・消防署と連携した避難、防火、通報訓練	○交通安全を意識し、自分のために判断し、行動する ・進級、就学に向けて、交通安全の意識を高める ・小学校までの通学路における危険な場所を把握し、安全な歩き方について実際に保護者と歩いて、確認しておく（保護者への啓発）	
	3	地震・津波（伝達：非常ベル、放送） ＊予告なく行う ○大きな揺れが続いているときの自分の身の守り方を考え、行動する ○防災頭巾を自分でかぶり、鼻、口にハンカチを当てる（持ち物の確認） ○指導者の指示を集中して聞き、二次避難場所に移動する（近隣小の３階）	平成 29 年３月の改訂（定）で保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領では「災害への備え」の項目が新設され、避難訓練実施の義務付け、園所内の体制の整備について示されています。	

お姉ちゃんと一緒

「ほら、動いたよ」

「おいしそう。
食べてもいい？」

お花の冠、きれいでしょ

『飛行機、ブーン』

おうちの人と・・・

「わっしょい！わっしょい！」
今日の給食、楽しみだなぁ～